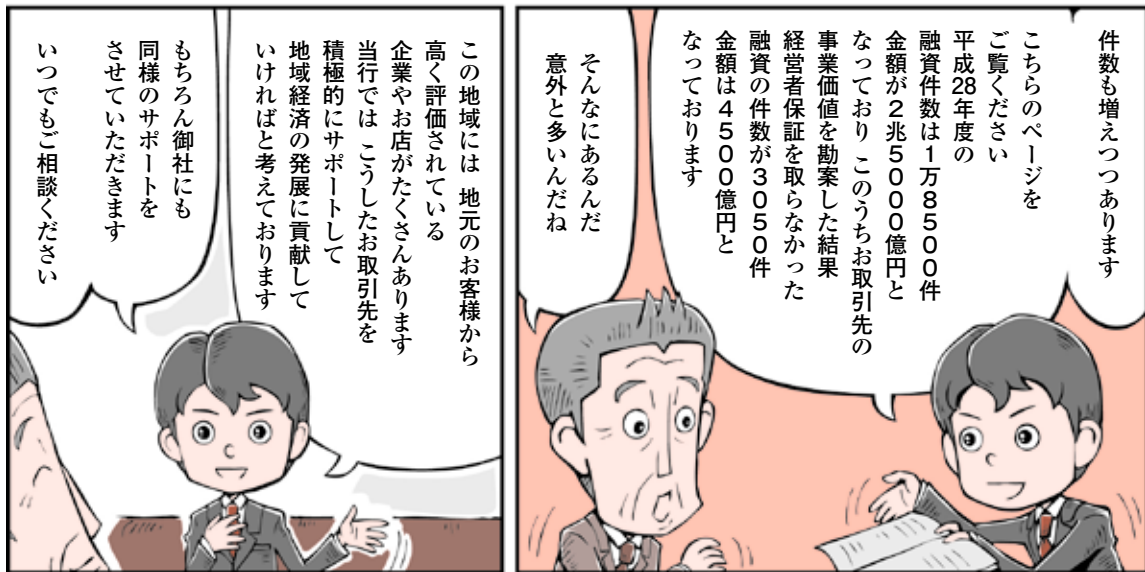
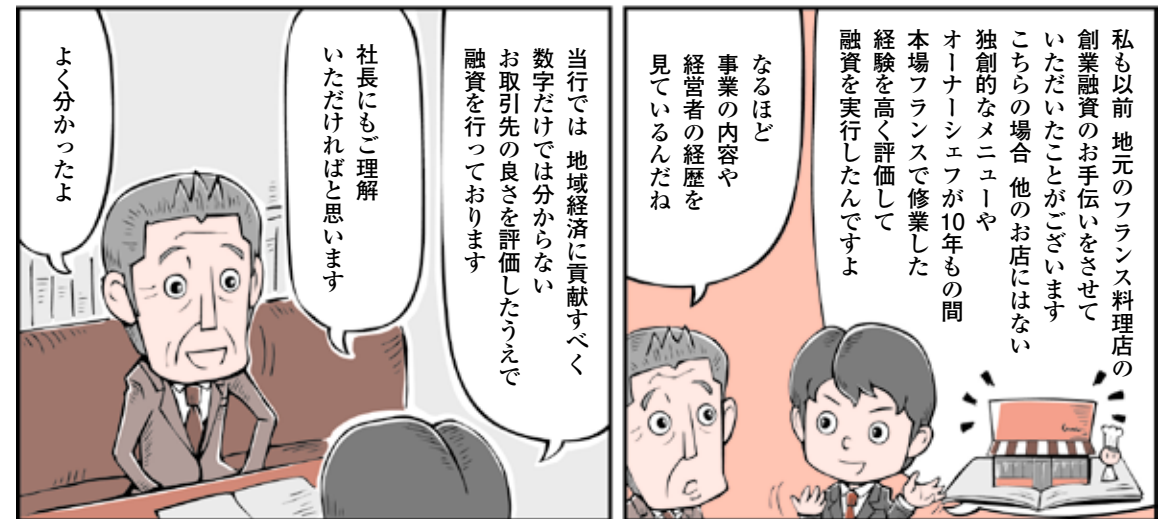
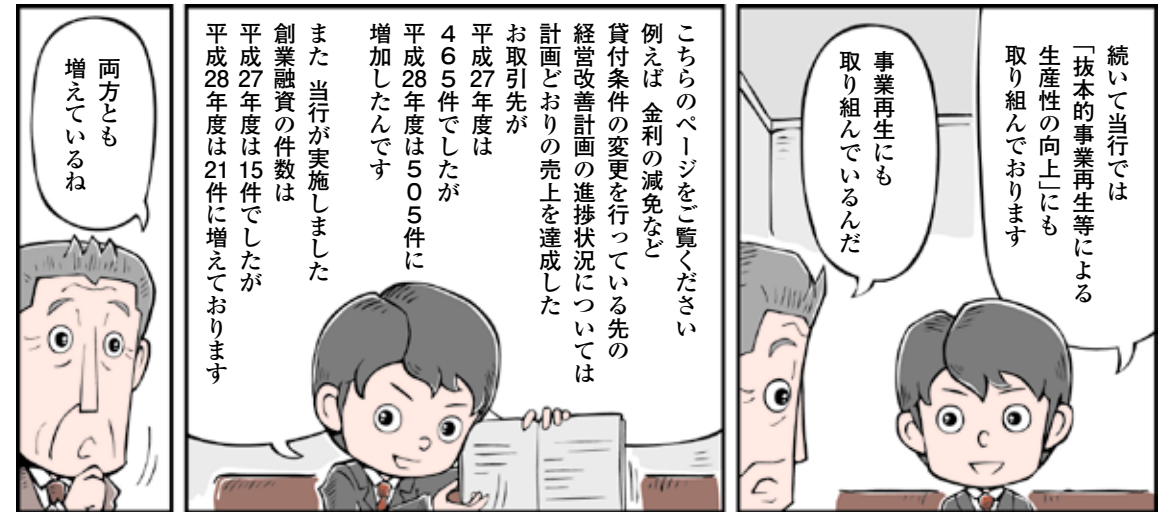


「担保・保証依存の融資姿勢からの転換」の開示



「取引先企業の抜本的事業再生等による生産性の向上」の開示



**本** 項目は、金融庁がベンチマークを公表した背景を象徴的に表しているものであり、多くの取引先においても知るところとなっております。

共通ベンチマークで事業性評価に基づいた融資を行った先数・金額などを総括的に示す一方で、選択ベンチマークでは詳細について示す項目も用意されています。

**他行庫との比較は不適切**

本項目の説明ポイントは、自行庫における事業性評価融資の定義だと考えられます。というのも、具体的な定義は金融機関ごとにある程度の差違が生じてくるからです。仮に、取引先の事業価値や将来性、希少性を重視して融資を行っているのであれば、そのことを説明します。

したがって、件数や割合などの数字だけをもって他行庫と比較することは適切とはいえず、どんな観点で事業性評価に基づいた融資を行っているかが説明のポイントとなるのです。

**前** 項目がメイン先に関する内容であるのに対して、本項目は自行庫と取引先の取引順位のみならず、取引先のライフステージ（すなわち創業→発展→衰退の各期）も含めて広範な取引先をカバーする指標となります。

ここでいう「抜本的」とは、単なるリストラではなく、取引先の業種や組織構造など重要な部分について変革を施した事業がイメージされています。

**代表的な事例について説明**

こうした事業は頻繁に発生するものではありませんし、件数の多い金融機関が優れているものでもないでしょう。当該案件に対してどれだけ主導的な役割を果たしたかというプロセスや金融機関として蓄積されているノウハウこそが評価されるものと思われまます。

その意味で、本項目について説明する際には、代表的な事業再生・創業支援事例の概要を伝えることが、自行庫の実力のアピールにつながるというでしょう。